

## 伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館情報 No. 201



今日は資料館へちょっとタチヨリ！ 令和5年（2023）11月

今月号は、開催中の企画展「最新・いせさき発掘—伊勢崎駅周辺の発掘調査—」の展示資料の紹介に加え、11月10日から企画展と同時開催するパネル展「明治の探検家 矢島保治郎—伊勢崎からチベットへ—」の情報をお届けします。この秋は資料館の企画展とパネル展に、ちょっとタチヨリ！ してみてくださいはいかがでしょうか。

## 令和5年度企画展

最

新

いせさき

発

掘

伊勢崎駅周辺の

発掘調査 12/24<sup>まで</sup>(日)

伊勢崎駅周辺の整備事業に伴う発掘調査によって明らかとなった市街地の歴史は、伊勢崎市の発展のルーツでもあります。企画展では、伊勢崎駅周辺の土地区画整理事業に伴う伊勢崎城跡と喜多町遺跡の発掘調査成果から、伊勢崎市の市街地発展のルーツを紐解くとともに、最新の発掘調査成果を公開する機会といたします。

## 伊勢崎城跡の発掘調査 伊勢崎空襲の爪痕

終戦前夜の昭和20年（1945）8月14日23時50分から翌15日午前3時、アメリカ軍B29爆撃機約30機が伊勢崎上空に侵入し、伊勢崎市街地は焼夷弾と爆弾による空襲を受けたと当時の上毛新聞が伝えています。この空襲によって、市街地の3地域が帯状に焼夷弾によって焼かれ、周辺地域の被害も含め死者は40人にも達しました。

焼け野原となった市街地では、罹災した人々が焼失した家屋の残骸や瓦礫を埋めて復興に尽力し、その瓦礫を埋めた無数の穴（戦災廃棄坑）が、空襲被害範囲と重なる発掘調査区から確認されました。

戦災廃棄坑から出土した大量の瓦や陶磁器類などの瓦礫の中には、焼夷弾の熱で変形したガラス瓶や溶けたガラスが付着した陶磁器、熱で溶けて塊状となった20枚以上のレコードなどがあり、発掘資料から伊勢崎空襲の惨状を知ることができる調査となりました。次回は喜多町遺跡を紹介。



伊勢崎城跡出土の伊勢崎空襲で焼けたレコードと溶けたガラス

没後60年パネル展

11/10(金)~12/24(日)

## 明治の探検家 矢島保治郎 —伊勢崎からチベットへ—

佐波郡殖蓮村（現伊勢崎市本関町）の矢島保治郎は、明治42年に一人で世界無銭旅行に横浜港から旅立ち、当時鎖国状態だったチベットに外国人として初めて中国から入った探検家です。矢島は、密入国が発覚しそうになり帰国しますが、再びチベットを目指した2度目の入国では、チベット仏教の最高指導者ダライラマ13世の信任を得て親衛隊長に就き、妻ノブラーと結婚して長男意志信<sup>しのぶ</sup>を授かります。その後は家族3人で帰国し、前橋で暮らしました。

今年は矢島保治郎没後60年の節目を迎えます。常識に支配されず、突出した行動力で世界を渡り歩いた伊勢崎の快男矢島保治郎について、写真とパネルで紹介いたします。



チベットの親衛隊長として軍服を着た矢島保治郎

## 伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日（月曜日が祝日は翌日）・年末年始・臨時休館日 開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分）

お問い合わせ 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98

電話 0270-63-0030

FAX0270-63-0087

E m a i l : siryokan@city.isesaki.lg.jp

入館無料